

# ゾーン間沈下計の設置例

## 1. 床掘

計器設置標高より+60cm程度まで盛立が完了した後、計器設置用のトレンチを掘削する。なお、フィルターゾーンは計器設置面より10cm程度、ロックゾーンについては計器設置面より30cm程度トレンチを掘り下げる。

トレンチ面から大径材を取り除き、1トンローラで平らになるように転圧する。

フィルターゾーンは20mmアンダー材で計器設置標高まで埋め戻し、1トンローラで転圧する。またロックゾーンは計器設置標高-20cmまで50mmアンダー材で埋め戻して1トンローラで転圧後、20mmアンダー材で計器設置標高まで埋め戻し、1トンローラで転圧する。

## 2. 計器設置

整形したトレンチ上で、計器を組み立てる。

組立が完了した後、全体的に曲がりを矯正して傾斜計設置位置を確認する。

傾斜計及び接続パイプの設置標高を測量し、水平に設置されているかを確認する。

各計器の設置標高の差が測定に問題ないように調整し、その調整後の設置標高を記録しておく。

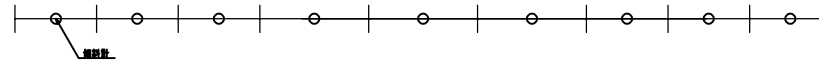
計器の測定区間長（軸間距離）をスケールで実測する。コア部計器の隙間に細粒のコア材を詰め込んだ後、順次計器、ケーブルを損傷しないような粒径のコア材で埋め戻し、ランマー、1トンローラを使用して締め固める。尚、フィルター及びロックゾーンでは、計器を20mmアンダー材を使用して埋め戻し、ランマー、1トンローラを使用して締め固める。

ケーブルをトレンチ内に配線する。尚、ケーブル周辺は20mmアンダー材で埋め戻す。

## 3. 初期値測定

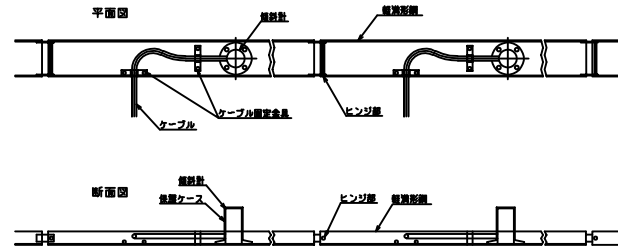
初期値の確認を行う。

ゾーン間沈下計割付図



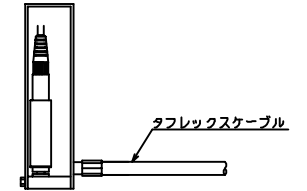
ゾーン間沈下計詳細図

※設置間隔@3mの場合

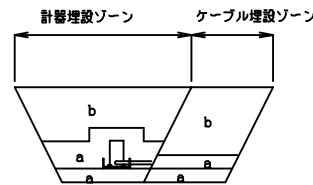


断面図

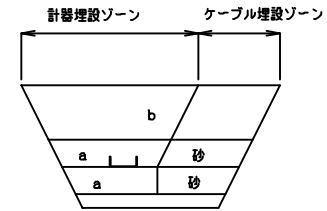
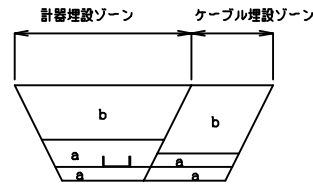
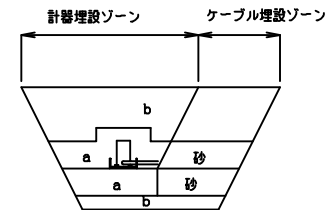
ゾーン間沈下計詳細



コア、フィルター部埋設状況



ロック部埋設状況



フィルター内ケーブル埋設ゾーンのb材は砂を使用する

計器埋戻し材料

記号	埋戻し材料（粒径）
a	細粒材（20mmアンダー材）
b	中粒材（50mmアンダー材）